

# 令和2年度 立川市立第六小学校 授業改善推進プラン

## 1 本校の児童に身に付けさせたい資質・能力、目指す授業

### (1) 身に付けさせたい資質・能力

- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など
- ・実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能
- ・未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など

### (2) 目指す授業

- ・主体的・対話的で深い学びを実現し、どの児童にも分かる喜びを味わわせ、自主的、自発的に学習することができる授業
- ・児童の興味・関心を高め、互いのよさから学び合う効果的な授業
- ・言語感覚を養い、思考力、判断力、表現力等を育成することのできる授業

## 2 本校の実態・課題及び授業改善策

### (1) 実態・課題把握の資料について

- ・「東京都ベーシック・ドリル」の分析（2～6年生）
- ・「令和2年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校5年生）
- ・「令和2年度全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）
- ・「平成31年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣等調査」の分析（全学年）
- ・「みんなの学校生活アンケート」の分析

### (2) 「東京ベーシック・ドリル」の分析

#### ①東京ベーシック・ドリル算数診断シートAの結果（平均正答率）

平成31年度(%)				令和2年度(%)			
	本校	立川市	本校と市の差		本校	立川市	本校と市の差
2年	82.3	87.5	-5.2	2年	77.6	73.4	4.2
3年	68.3	61.9	6.5	3年	71.5	56.4	15.1
4年	70.1	64.5	5.6	4年	68.7	66.7	2.0
5年	71.8	72.6	-0.8	5年	71.1	61.4	9.7
6年	70.7	66.8	3.8	6年	53.7	52.5	1.2

- ・昨年度は、2年と5年において、本校の平均正答率は、市の平均正答率より低く課題があった。今年度の本校の平均正答率と市の平均正答率の比較では、2年から6年の全ての学年において平均正答率が高かった。特に、5年においては9.7%、3年においては15.1%高い結果となった。6年の平均正答率は、市の平均正答率に比べ高かったが、中学進学に向け、さらに正答率を高める必要がある。
- ・児童一人一人の課題を把握し、児童の課題に合った指導を行うとともに、今後も、基礎・基本の学力を定着させるため、授業で基礎的な知識・技能を習得できるよう取り組んでいく。

#### ②現在の学年と昨年度の学年時の本校と市の差の比較（平均正答率）

平成31年度(%)		令和2年度(%)		平成31年度と令和2年度の差(%)
旧学年	本校と市の差	現学年	本校と市の差	
旧2年	-5.2	現3年	15.1	20.3
旧3年	6.5	現4年	2.0	-4.5
旧4年	5.6	現5年	9.7	4.1
旧5年	-0.8	現6年	1.2	2.0
旧6年	3.8			

- ・今年度3年の児童は、昨年度は市の平均正答率に比べ5.2%低かったが、今年度は15.1%高く、学習の成果が見られた。また、今年度5年、6年の児童についても、昨年度に比べ平均正答率の差がプラスに大きくなり、成果が見られた。
- ・今後も基礎・基本の定着を図るため、指導方法の工夫に努め、算数の單元ごとに児童の理解に応じた学習集団を適正に編成する。算数習熟度別指導を生かした取り組みと東京ベーシック・ドリルの徹底を継続することで、児童の学力向上を図る。

③各学年における平均正答率の低い問題

学年	問題内容	令和2年度(%)
2年	たし算・ひき算を使った問題 (例)あわせて何人でしょう。	52.3
3年	単位換算の問題 (例)1L=OdL	13.6
4年	たし算・ひき算の関係を図で表す問題 (例)問題の場面を図に表しましょう	40.4
5年	3けた÷3けたの計算の問題 (例)808÷260	52.1
6年	がい数及び四捨五入の問題 (例)人口密度を四捨五入して、一の位までのがい数で求めましょう	15.2

- ・2年、4年、5年で「数と計算」に関する問題の平均正答率が低い。加法や減法に関わる数学的活動を学習の中に取り入れるとともに、計算ドリルや東京ベーシック・ドリルなどを繰り返し行い、計算の基礎・基本の定着を図る。
- ・3年では、「測定」に関する問題の平均正答率が13.6%であった。また、6年では、「がい数」に関する問題の平均正答率が15.2%であった。量の単位と測定に関わる学習活動を工夫したり、おおよその数で考えたりすることができるように、日常生活の場面においても、数学的活動を取り入れた授業づくりを進める。

(3) 「令和2年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」(第5学年)の分析

①児童・生徒の学力向上を図るための調査(国語の領域別の平均正答率)

	話す・聞く	書く	言語	読む	平均正答率(%)
令和2年度	72.5	56.5	54.0	78.3	67.0
平成31年度	62.3	71.0	58.7	58.3	61.2

- ・昨年度に比べ、今年度は、平均正答率が67.0%と5.8%高くなった。また、「読む」領域の平均正答率が昨年度は58.3%と低かったが、今年度は78.3%と高くなった。校内研究において、国語の「読む」領域を中心とした授業改善を行っており、この成果の表れともいえる。今後も、登場人物の相互関係や心情などについて、叙述を基に捉えたり、表現の効果を考えたりできるよう、言語活動を工夫した授業づくりを行っていく。
- ・「言語」領域では、昨年度が58.7%、今年度が54.0%とともに低い結果であった。漢字や言語、主語と述語の関係、修飾語を適切に選ぶなどの基礎的な知識の理解を図る指導に力を入れる必要がある。
- ・「書く」領域では、昨年度は71.0%であったが、今年度は56.5%と低い結果となった。作文指導などにおいて、書くことを見付けたり、相手や目的、意図に応じて書くことを選んだりするとともに、必要な材料を整理し、伝えたいことを明確に記述する学習に取り組ませていく。

②児童・生徒の学力向上を図るための調査（算数の領域別の平均正答率）

	思考・判断・表現	技能	知識・理解	平均正答率(%)
令和2年度	52.7	73.7	59.7	64.9
平成31年度	40.2	58.0	67.4	54.7

- ・昨年度に比べ、今年度は、平均正答率が64.9%と10.2%高くなった。また、「技能」領域の平均正答率が、昨年度は58.0%と低かったが、今年度は73.7%と高くなった。今後も、定規や分度器など算数用具の扱い方の指導を丁寧に行ったり、正確に定規を当てて線を引いたり、分度器で角度を測ったりするなど、日頃からの指導を、丁寧かつ継続的に行っていく。
- ・「思考・判断・表現」領域では、昨年度が40.2%、今年度が52.7%とともに低い結果であった。日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力や、既習事項を生かして考える力を育成する授業改善や工夫が必要である。また、数学のよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養うための生活との関連を図った指導も必要である。

③児童・生徒の学力向上を図るための調査

（国語・算数の平均正答率75%以上及び25%未満の児童の割合(%)）

	国語		算数	
	75%以上	25%未満	75%以上	25%未満
令和2年度	31.9	6.4	36.2	10.8
平成31年度	23.9	4.3	23.9	10.8

- ・昨年度に比べ、今年度は、平均正答率が75%以上の児童の割合は、国語が8.0%、算数が12.3%高くなった。しかし、国語では、平均正答率が25%未満の児童の割合についても、1.9%高い結果となった。国語、算数の学習の習熟が進んでいる児童が増えているが、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けていくための補充的な指導や、学習をより進めていくための発展的な指導など、個に応じた指導を行い、習熟の遅れがちな児童の底上げを図る。

(4) 「令和2年度全国学力・学習状況調査」(第6学年)の分析

①令和2年度全国学力・学習状況調査(国語の領域別の平均正答率)

	話す・聞く	書く	言語	読む	平均正答率(%)
令和2年度	82.2	66.7	69.3	71.1	71.7
平成31年度	68.1	52.9	42.2	79.7	58.0

- ・昨年度に比べ、今年度は、平均正答率が71.7%と13.7%高くなった。「読む」領域の平均正答率は、昨年度は79.7%と高かったが、今年度は71.1%と、昨年度に比べ8.6%低くなった。物語を読む際は、時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化などの基本的な構成要素を、叙述を基に理解した上で、想像豊かに読むことができる手だてを講じるなどの授業改善を図る。また、読書週間などを活用して、読書活動を積極的に行い、読書意欲を高める。
- ・今年度の「話す・聞く」「書く」「言語」領域の平均正答率は、昨年度に比べ、「話す・聞く」14.1%、「書く」13.8%、「言語」27.1%といずれも10%以上高くなった。感染症予防に配慮した上で、今後も討議形式や対話、話し合いを取り入れた授業づくりを行い、児童相互の考えを深める学習活動を行う。また、児童が自らの考えを深めたり、整理したりしながら書けるように、書く活動に必要な時間を確保し、児童が自分自身と向き合うことができるようにする。

②令和2年度全国学力・学習状況調査（算数の領域別の平均正答率）

	思考・判断・表現	技能	知識・理解	平均正答率(%)
令和2年度	60.0	84.4	74.8	70.1
平成31年度	62.0	75.5	72.8	67.0

- ・昨年度に比べ、今年度は、平均正答率が70.1%と3.1%高くなった。また、「技能」領域の平均正答率は8.9%、「知識・理解」領域の平均正答率は2.0%高くなった。今後も、児童一人一人の数量や図形についての技能を高めるため、目的に応じて資料を集めて分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり、特徴を調べたりする活動を授業に取り入れていく。また、毎週金曜日のさんさん算数の時間などを活用し、東京ベーシック・ドリルを繰り返し行うことで、基礎・基本の習熟を図るとともに、個別に指導に当たり、児童の知識・理解を高めていく。
- ・「思考・判断・表現」領域では、昨年度が62.0%、今年度が60.0%と他の領域に比べ低い結果であった。また、昨年度に比べ、今年度は2%低い結果となった。算数の学習を行う際は、自分の考えをしっかりとつ時間を確保するとともに、解決過程や結果を振り返ったり、統合的・発展的に考察したりしながら、自分の考えを判断することができる授業づくりを行う。また、課題把握の場面や自力解決の場面を設定し、根拠のある立式や複数の解法による問題解決を児童に行わせていく。

③令和2年度全国学力・学習状況調査

（国語・算数の平均正答率75%以上及び25%未満の児童の割合(%)）

	国語		算数	
	75%以上	25%未満	75%以上	25%未満
令和2年度	48.9	4.4	48.9	4.4
平成31年度	30.4	15.2	43.5	8.7

- ・昨年度に比べ、今年度は、平均正答率が75%以上の児童の割合は、国語が18.5%、算数が5.4%高くなった。また、平均正答率が25%未満の児童の割合についても、国語が10.8%、算数が4.3%低い結果となった。国語、算数の学習の習熟が進んでいる児童が増えているとともに、習熟の遅れがちな児童も昨年度に比べ減少している。今後も、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けていくための補充的な指導や、学習をより進めていくための発展的な指導など、個に応じた指導を継続的に行う。

(5) 「令和2年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び「令和2年度全国学力・学習状況調査」の児童質問紙の分析

①設問「各教科の授業について、どのくらい分かりますか。」（令和2年度6年児童の回答）

質問内容			1	2	3	4
国語の授業の内容はよく分かる	令和2年度	現6年	62.2	33.3	4.4	0
	平成31年度	旧5年	47.8	41.3	10.9	0
質問内容			1	2	3	4
算数の授業の内容はよく分かる	令和2年度	現6年	66.7	24.4	8.9	0
	平成31年度	旧5年	60.9	37.0	2.2	0

(1:よく分かる 2:どちらかといえば分かる 3:どちらかといえば分からない 4:ほとんど分からない)

- ・授業が「よく分かる」と答えた今年度6年の児童の割合は、国語が62.2%、算数が66.7%であった。昨年度5年のときに比べ、「よく分かる」と肯定的な回答をした児童の割合が、国語14.4%、算数5.8%といずれも増加している。国語、算数と授業改善を教員が図っている成果が少しずつ見られる。

②設問「各教科の授業について、どのくらい分かりますか。」（令和2年度5年児童の回答）

			1	2	3	4
国語の授業の内容はよく分かる	令和2年度	現5年	61.7	29.8	4.3	4.3
算数の授業の内容はよく分かる	令和2年度	現5年	66	25.5	6.4	2.1

（1:よく分かる 2:どちらかといえば分かる 3:どちらかといえば分からない 4:ほとんど分からない）

設問「よく分かる理由はなぜだと思いますか。」回答率の上位3つの回答

		設問	回答率
国語	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから		61.7
	読書が好きだから		55.3
	出された宿題をきちんとやっているから		51.1
算数	算数の問題にはいろいろな解き方があるから		72.3
	出された宿題をきちんとやっているから		63.8
	コースに分かれた少人数の学習があるから		55.3

（「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童のみ回答）

- ・授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた今年度5年の児童の割合は、国語91.5%、算数91.5%といずれも高い割合であった。しかし、「ほとんど分からない」と回答した児童も国語4.3%、算数2.1%いるため、どの児童も分かると思える授業を行えるよう、児童一人一人の課題を把握し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた今年度5年の児童の理由として、国語では、「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」を理由に挙げている児童が61.7%いた。また、算数では、「算数の問題にはいろいろな解き方があるから」を理由に挙げている児童が72.3%いた。

③設問「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」「算数の問題で解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」（令和2年度6年児童の回答）

			1	2	3	4
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う	令和2年度	現6年	75.6	17.8	4.4	2.2
算数の問題で解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える			60.0	37.8	2.2	0.0

（1:よく分かる 2:どちらかといえば分かる 3:どちらかといえば分からない 4:ほとんど分からない）

- ・「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」の設問に「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた今年度6年の児童の割合は、93.4%であった。今年度5年の児童が授業が「分かる」と回答した理由と同様に、授業に話し合い活動を多く取り入れ、児童同士の学び合いを進めている結果だといえる。
- ・「算数の問題で解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」の設問に「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた今年度6年の児童の割合は97.8%であった。算数の学習においても、多様な考えが引き出される発問を考え授業改善を図っている成果が少しずつ表れているといえる。

④設問「学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか」（児童の回答）

			1	2	3	4	5
学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか	令和2年度	現5年	10.6	21.3	48.9	10.6	8.5
		現6年	17.8	13.3	17.8	48.9	2.2

（1:2時間以上 2:1時間～2時間 3:30分～1時間 4:30分未満 5:学習することはない）

- ・「学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか」の設問では、現5年は「30分～1時間」の児童、現6年は「30分未満」が48.9%と多い。30分以上学習する児童の割合は、現5年が80.9%、現6年が48.9%で6年の学習時間が少ない。また、「学習することはない」と回答した児童が現5年8.5%、現6年2.2%といるため、補充学習や発展学習を家庭でも行えるよう、個別に働きかけ、家庭学習の充実を図る。

(6) 「平成31年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣等調査」の分析

▼市平均を下回る ○市平均を上回る			1年	2年	3年	4年	5年	6年
			(現2年)	(現3年)	(現4年)	(現5年)	(現6年)	
握力	男子	本校平均	7.3▼	9.8▼	11.4▼	14.2▼	15.4▼	17.8▼
		市平均	9.0	10.7	12.9	14.8	16.5	19.1
		都目標値	10	11	13	15	17	20
	女子	本校平均	7.1▼	9.2▼	11.2▼	13.1▼	14.6▼	18.9▼
		市平均	8.4	9.9	12.0	14.0	16.3	19.2
		都目標値	9	11	12	14	17	20
立ち幅とび	男子	本校平均	107.6▼	113.1▼	129.0▼	134.8▼	145.6▼	160.3▼
		市平均	107.8	119.6	131.7	141.1	151.0	162.0
		都目標値	116	127	137	147	156	167
	女子	本校平均	105.5○	113.5○	115.7▼	126.1▼	143.2▼	154.1
		市平均	100.8	112.6	123.7	136.1	144.4	154.1
		都目標値	109	121	130	139	150	159
反復横とび	男子	本校平均	28.4○	30.6○	34.6	35.5▼	44.6○	48.6○
		市平均	25.6	30.0	34.6	38.0	41.4	44.6
		都目標値	28	33	36	41	44	47
	女子	本校平均	26.5○	28.8○	34.0○	34.0○	36.3▼	40.4▼
		市平均	24.7	28.0	32.5	32.5	37.0	41.1
		都目標値	27	31	35	35	39	42
ソフトボール投げ	男子	本校平均	7.8○	10.8○	17.2○	20.9○	23.8○	25.7○
		市平均	7.3	10.4	14.4	18.1	20.2	24.0
		都目標値	9	12	16	20	24	28
	女子	本校平均	5.0▼	7.0○	9.5○	13.3○	14.9○	17.5○
		市平均	5.1	6.8	8.8	10.8	12.6	14.5
		都目標値	6	8	10	13	15	17

※令和2年度の調査については、10月現在未実施のため、平成31年度に調査した結果を基に分析した。

- ・握力については、全学年において、男女共に市平均及び都の目標値を下回っており、課題がある。特に、現2年の児童は、男子が1.7ポイント、女子が1.3ポイント、市の平均に比べ低く向上を図る必要がある。また、現6年女子が1.7ポイント、市の平均点に比べ低い。鉄棒やうんてい、ジャングルジムなどの固定遊具を使った様々な運動や雑巾絞りなど、握る動きを学習の中で取り入れていく。
- ・立ち幅とびについては、男子の全学年及び女子の現4・5・6年において、市平均及び都の目標値を下回っている。特に、現4・5年の女子は8ポイント以上市の平均点に比べ低い。跳躍の際には、体全体を使って力強く跳んだり、手を思いきり振ってタイミングよく跳んだりするように指導する。また、すばやく動き出すために必要な瞬発力を伸ばすための運動を体育の授業に取り入れ授業改善を図る。
- ・反復横とびについては、現5年の男子が市平均に比べ2.5ポイント低い。しかし、その他の学年については、市平均に比べ高く、学校全体で見ると素早い動きが得意な児童が多い。
- ・ソフトボール投げについては、現2年の女子が市平均に比べ0.1ポイント低い。しかし、その他の学年については、市平均に比べ高く、学校全体で見ると、力の入れ方やボールを投げる方向などを意識してボールを投げるのが得意な児童が多い。
- ・今年度は、近接する運動について制限があるが、その他の運動や外遊び、短縄・長縄などの一校一取組により、体力の維持・向上を図る。

(7) 「みんなの学校生活アンケート」の分析

項目	肯定的回答(%) (全学年)	
	令和2年度	平成31年度
毎日、家庭学習(宿題など)を行っている	96.6	95.5
時間や決まりを守って安全に生活している	92.8	90.3
授業がよく分かる	92.4	92.4
授業が楽しい	89.7	90.0
学校で学ぶことで、学習する力や運動する力が伸びてきている	90.0	92.8
授業中、学び合いや教え合い、高め合うことができる学級である	87.6	90.3
誰もが自分の意見や考えを(理由を付けて)発言できる学級である	85.9	88.3
授業中にむだなおしゃべりや手いたずらをしない学級である	75.9	73.8

※みんなの学校生活アンケートは7月に全学年で実施した。

- ・「毎日、家庭学習を行っている」という設問に「とても思う」「そう思う」と回答した児童の割合は96.6%である。本校の全学級で取り組んでいる「音読」「漢字」「計算」の宿題を継続的に実施していくことで家庭学習の継続を図る。
- ・「時間や決まりを守って安全に生活している」という設問に「とても思う」「そう思う」と回答した児童の割合は92.8%であった。昨年度に比べ、肯定的回答が3ポイント高い。しかし、「授業中にむだなおしゃべりや手いたずらをしない学級である」と回答した児童は、昨年度より2.1ポイント高くなったものの75.9%と低い。児童が規則正しい生活を送るとともに、授業中に学習に向かう態度を整える必要がある。
- ・「授業がよく分かる」「授業が楽しい」という設問に「とても思う」「そう思う」と回答した児童の割合は概ね90%以上であった。6月15日の一斉登校からあまり日数が経過していない中でのアンケート実施であることを考えると、高い数字と捉えられる。一方で、「あまり思わない」「そう思わない」と思う児童が10%程度いるため、児童の興味・関心を高めるとともに、どの児童にも分かる喜びを味わわせ、自主的、自発的に学習できる授業づくりを行っていく。
- ・「授業中、学び合いや教え合い、高め合うことができる学級である」「誰もが自分の考えを発言できる学級である」という設問の肯定的な回答は、87.6%、85.9%と高い。しかし、昨年度に比べると2ポイント下がった。感染症対策の影響も考えられるが、児童の意見を大切にしながら学級づくりを行うとともに、児童同士の互いのよさから学び合う効果的な授業づくりを行う必要がある。

### 3 各教科等で共通の授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
効果的な板書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内共通の「めあて」「まとめ」のカードを活用し、掲示する。</li> <li>・書く文字数をノートのマスの数に揃えて板書する。</li> </ul>
学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えが表現できるように、ノートやワークシートの形式を工夫する。</li> <li>・学び合いを発達段階や学習活動に応じて取り入れる。</li> </ul>
振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で分かったこと」、「今後の学習に生かしていきたいこと」などを自分の言葉(図、表、グラフなども含む)でまとめ、学習の自己評価を行う。</li> </ul>
学習環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもたせるために、ホワイトボードに45分の流れを明示する。</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点から、教室の前面にはできる限り掲示をしない。</li> <li>・学習のねらいに応じて、ICT機器(タブレット端末)を効果的に活用する。</li> </ul>
補充学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は、地域未来塾を10月より実施する。</li> <li>・放課後子ども教室(はごろもっ子)を実施し、地域・保護者、ボランティアの方と家庭学習に取り組む。</li> <li>・毎週金曜日の朝に、全校で東京ベーシック・ドリル(算数)を取り組ませる。</li> </ul>
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳を活用し、家庭での宿題の把握を促す。</li> <li>・各学級において、毎日、音読・漢字・計算(算数)の家庭学習を実施する。</li> <li>・学年の発達段階に応じて、自主学習に取り組ませる。</li> </ul>